

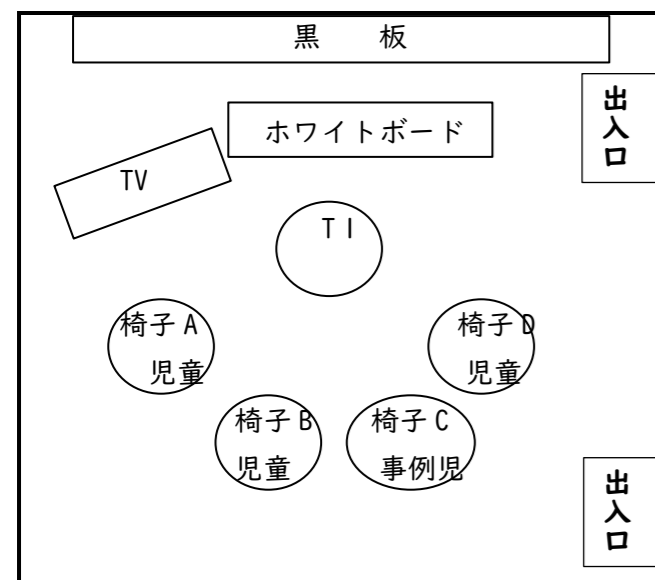
授業づくりシート

領域名 自立活動

3 学年

テーマ	「まねっこ遊びをしよう～口や舌の動きを意識して～」	
事例児の実態	<ul style="list-style-type: none"> ・口頭指示で行動に移すことができる。(コミュニケーション) ・口形の模倣はできるが、音声の模倣は、不明瞭である。(身体の動き、コミュニケーション) ・「トイレに行きたい」時は、絵カードと文字カードで自分から伝えることができる。(コミュニケーション) ・特定の言葉を自分なりの発声で伝えることができる。(コミュニケーション) ・発声を促すとまねをして発声で応えようとする。(コミュニケーション) ・発声で支援を求めたり、必要なことをしたりすることはない。(コミュニケーション) 	
事例児の個別目標	<ul style="list-style-type: none"> ・舌や顔の筋肉を使った口の動きができる。(身体の動き) ・発音することができる音を増やすことができる。(コミュニケーション) 	
活動内容と具体的な手立て		
活動内容	ねらい	具体的な手立て
口・舌の体操	・教師の手本を模倣して、口や舌を意識的に動かすことができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・目の前に座り、口形や舌の使い方がわかるようにする。 ・手鏡で確認することで、自分の口や舌の形にも興味をもてるようにする。
動物まねっこクイズ	・自分の発声で伝えることの楽しさを味わい、発声への意欲をもつことができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・教師と一緒に発声練習をし、自信がもてるように取組を称賛する。 ・最初に教師がクイズを出すことで、やり方を確認できるようにする。 ・ギガタブで、自分の発声の様子を撮影することで、口形を意識できるようにする。(後日、視聴する際に、聞こえ方にも意識を向けられるようにする。)

○場の配置



○教材教具等

○吹き戻し笛 (口・舌の体操)
正しく息を吹き出せているかを視覚的にわかる楽しい玩具を用意する。

○動物ルーレット (動物まねっこクイズ)
決まった動物だけを選ばずに、何が当たるかわからない楽しみをもてるルーレットを作成する。

○展開

時配	活動内容	教師の支援等
9:50	○始めの挨拶	・「おねがいします。」の一語でも発声するよう促す。
9:51	○呼名	・呼名前に「名前を呼ばれたら はい、だね。」と確認する。
9:53	○まねっこをしよう ・動物にらめっこ ・あいうべ体操 ・吹き戻し笛	<ul style="list-style-type: none"> ・「動物さんとにらめっこ」の映像に合わせながら、楽しんで顔や舌を動かす。 ・あいうべ体操では教師の口の動きを模倣しながら、自分の口の形に意識を向けて動かすようにする。 ・ストローを使った遊びをしながら、楽しんで息を吹く練習をする。
10:00	○動物まねっこクイズをしよう ・鳴き声ものまね ・動物ルーレット ・動物まねっこクイズ	<ul style="list-style-type: none"> ・児童に馴染みのある鳴き声で真似のしやすい動物(イヌ・ネコ・カラス・ブタ・ヒツジ)を提示する。 ・それぞれの鳴き声の最初の口形や音声を模倣しやすいように、ゆっくり丁寧に行う。 ・模倣しづらいときには、手鏡を持ち、口形や舌の位置を自分で確認できるようにする。 ・一人ずつ前に出て、ルーレットを回す楽しみを味わいながら、当たった動物の鳴き声を披露できる場を設ける。 ・教師が最初の出題者になり、やり方を確認する。 ・毎回同じ児童にならないように、チャレンジルーレットを回し、当たった児童がクイズを出すようにする。 ・出題者が、5匹の中から動物を選ぶ際に、迷っているときは、上手にできていた動物を促す。 ・解答者が口形も意識しやすいように、ギガタブを使って発声の様子を大型TVに映す。 ・解答者には、出題者の口形や音声から、どの動物の鳴き声をよく見聞き、判断するよう促す。
10:10	○終わりの挨拶	・「ありがとうございました。」の一語でも発声するよう促す。

○成果と課題

- 指さしや動作サインで伝えようとするものが多く、口や舌を動かして声を出そうとすることが少なかったが、遊びやゲームを入れて楽しく活動することで、発声の機会が増えてきた。
- 手鏡を使ったり、ギガタブで口元を映したりすることで、口形を意識することが増えた。
- 頑張っって伝えようとしてきた時に言い直しをさせずに大いに受け止めるようにしたことで、日常生活や他の学習でも自発的な発声が増えた。
- △自分の発声を意識できるように、聴く活動も多く取り入れることが必要であった。